

ほし 彩星だより 第100号



若年性認知症家族会・彩星の会会報

令和元年11月9日号

〒160-0022 新宿区新宿1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ605

TEL 03-5919-4185/FAX 03-6380-5100

E-mail:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp

巻頭言

『彩星だより 第100号』 の発刊に際して



彩星の会 顧問 干場 功

彩星(ほし)の会(若年痴呆家族会関東部会)設立
平成13年9月25日10時より、「こまばエミナース」において設立総会と記念講演が行われた。
若年痴呆家族会関東部会 会報発行
平成14年4月、創刊号発行。

平成13年の設立総会には、約50名の出席があった。若年痴呆家族会(朱雀の会)の岡田代表とサークルエコー(低酸素脳症家族会)の谷口氏の祝辞を頂いた後、発起人を代表して宮永氏から設立までの経過説明があった。その後、会則の説明、承認に続き役員を選出が行われ、代表は萩原弘子氏、副代表は比留間ちづ子氏と宮永利夫氏の2名、会計は船場久仁美氏、監事は三沢幸史氏と齋藤芳雄氏の2名、世話人には、木舟雅子、牧野史子、三澤孝夫、大森とよ、清水那智子、田辺昭午、渡辺和未、米村公江の各氏8名が選ばれた。(アルファベット順)

この度「彩星だより」100号巻頭言の依頼を森代表から受けた時、この「若年痴呆家族会(関東部会)会報創刊号」を忘れてはならないと思いました。これが「彩星だより」の原点なのです。もう17年も経ったのかとの思いで、改めて第1号の会報を読み返してみました。

宮永先生をはじめ専門職の先生方の、彩星の会発足に向けての多大なるご尽力をいただいたからこそ、この会ができたのだということを改めて思い返しました。

あのころは定例会会場が点々として定まらず、各先生方にご苦労して探していただきながら開催されましたこと、この紙面をおかりして心より感謝申し上げます。

さて私は、妻の発症数年後に診断がついたと同じ頃家族会の立ち上げを知り、藁をもつかむ思いで参加した次第です。

初代の萩原代表のリーダーシップのもと、途中からは私も副代表として萩原代表の指導を受けつつ、その後の活動につながられたものと思います。

私が代表を受けた当時、丁度映画『明日の記憶』の撮影が始まり、東映本社における完成試写会への参加、本人、家族が渡辺謙さんと記念撮影をしたり、週刊朝日による私との対談があったりしました。また、映画公開日には、東京会館に家族会からも確か10数名が招待を受け、パーティにも参加。それらは、その後の彩星の会活動に影響を与えた大きな出来事ではなかったかと思えます。

また、忘れてならないのは、家族会会員 M さんから家族会の運営に対して多大なご寄付をいただいたことです。当時は彩星の会及び若年認知症サポートセンターの運営に苦慮していた時期でしたので、本当に助かりました。この100号記念巻頭言の紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

彩星の会が設立されてもうすぐ20年を迎えるわけですが、設立時に関わっていただいた宮永先生をはじめ多くの関係者の方々が、今もなお彩星の会の運営に繋がってくださっているということは、本当に素晴らしい事であると思います。

これからも若年性認知症本人と家族にとって、この「彩星の会」が心温まる場所になることを願って、これまで支えていただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。



9月定例会報告

家族交流会 報告

前回に引き続き、キリン福祉財団による「キリン・地域のちから応援事業」ステージ2として「当事者を交えたパネルディスカッション」が、9月21日(日)新宿区立障害者福祉センターで開催されました。三連休の中日にもかかわらず区議、都・区職員、サポーター、そして当事者とその家族等、〇〇名ほどが集まりました。

パネルディスカッションは若年性認知症当事者として樋口賢氏、日本赤十字看護大学准教授の千葉京子先生、都立松沢病院ソーシャルワーカーの木村亜希子氏が登壇し、三橋良博世話人と森義弘代表の進行で進められました。



始めに樋口賢氏が今の状況で一番励まされる音楽として、家入レオの「僕たちの未来」の歌詞が参加者に配られ、スクリーンで家入レオの映像と曲が会場に流れました。

軽妙な進行とユーモアを交えた発言、率直な感想や参加家族からの質問、そして何よりも当事者である樋口賢氏の前向きな姿勢に会場全体が圧倒され、90分があったという間に過ぎ去りました。

◆ 以下、シンポジウムの要約です。
敬称は省略させていただきました◆

千葉:65歳以上の老齢看護学を専攻しているが、彩星の会に2006年から参加し旅行に3回同行している。

木村:140年の歴史のある松沢病院でソーシャルワーカーをしているが、職場のメンタルヘルスに関する業務で若年性認知症早期発見に努めている。

樋口:会話ができて皆さんと繋がる事が、生きている大事なことだと思っている。

三橋:昨年の樋口さんの講演で「今の自分を見てもらい、見守ってほしい」と話していたが？

樋口:練馬区生まれ。人前に出ることが好きで、文化祭で芸能プロからもお声がかかるような「お笑いプロレス」を行った。

以前は「自信は努力から」が座右の銘であったが、今は「あるがままに あせらずに」を大切にしている。

仕事があまくできなくなり辛いこともあったが、転勤先の鹿児島の上司が病院を探してくれて、診断された。

休職して東京に戻り、慈恵医大に通いながら職場復帰をサポートしてもらっている。

木村:いくつもの病院に通ってようやく診断されるケースが多い中で、職場の上司に恵まれ早期発見できた稀なケースである。



樋口:自分のことは自分で知りたい性格なので告知してもらった。

仕事は遣り甲斐があり、先輩にも可愛いがられた。家族会でつながりができ、先生たちの話を聞くことができた。

自分がどうなっていくのか知らなければ病気に立ち向かえない。

彩星の会はディサービスに通って知ることができた。

今、困っていることはお酒を飲み過ぎてしまう事と、買い物時小銭で払うことが面倒になってきたことである。

千葉:若年性認知症の場合なかなか受診に結びつかないことや、医師による心無い告知がある。本人が医療につながりやすい活動が求められる。

森:樋口さんの前向きな姿勢が症状の進行にブレーキを掛けているように見える。

樋口:多くの人に会っている。そのことで(自分の好みの)品物も寄ってくる。

森:外に出ることが良いのだと思う。

樋口:自分の近くで困っている人を助けようとすることで、自分も助けられている。

森:樋口さんとは講演会などの会場でよくお会いする。

樋口:家族に辛く当たってしまうこともあるが、仲間がいるので精神的に楽しく居られる。

自分の病気のことを知りたいので、自分がこうなっていることをオープンにすることで、仲間と繋がることができた。

岡田(樋口氏と高校同窓): 昨年の11月に高校の同窓会で、自分の病気を告知し、発信して、病気と闘うための情報を集める内容のスピーチを行った。少しずつ成果が上がってきている。
以前、言葉が出てこないと言っていたが、変わらないので安心した。



木村: 岡田さんが「長期記憶」という専門用語を使って話をされ、友人の為に勉強していることに感動した。樋口さんのご人徳で、私もそんな風に歳を取りたい。

千葉: 「自分は闘っていくんだ。」と宣言することで、周囲の人が援け易くなる。自分の力で歩いていこうとすることで、進行を抑制している。

主観的幸福論が大切で、病は喜ぶことではないが、どう闘っていくかで自分なりの幸せを見つけることができる。

三橋: 丹野さん(39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断され、以降多くのメディア等で発信を続けている丹野智文さん)と講演で同席したときのエピソードを。

樋口: 進行の途中で丹野さんが詰まってしまった時「コマースャル、行きましょう」とその場を繕った。「私(樋口)も講演したいので、早めにチケット取ってください。」

三橋: 配布した「認知症とともに生きる希望宣言」は日本認知症本人ワーキンググループが作成したもの。当事者が出来ることはたくさんあり、そのためには周囲の支えが必要。

6月に新しくなった認知症対策新大綱でも「認知症の本人の発信を支援」がうたわれている。

樋口: 変わらずに生きて、仲間が広がっていききたい。

◆会場からの質問◆

三橋: 会場からの質問を受けたい。

男性: 「あるがままに あせらずに」に感銘した。ご家族の不安を本人の性格が和らげている。病気以前からの座右の銘か。

樋口: 病気になってからの座右の銘である

女性: 人に伝えるきっかけは。

樋口: ボロボロだった時もあったが、慈恵医大でサポートされ「一緒についていく」と言われ前向きになった。

楽しいことは友達が増えて、人と繋がっていくこと。

千葉: ボロボロの時期を乗り終えて今の活動がある。医者と家庭の関係は良くあるが、看護職の話がない。タクティールケア、フィールケア等、患者に優しく触れることで不安を和らげることも大切。

今後も彩星の会と連携を取っていききたい。

木村: ソーシャルワーカーの登壇が少なく、理解されていない現状である。

本人と家族が発信する機会がもっと増えるべきである。松沢病院長の言葉であるが「どんな病気になっても、生きる主体であり客体ではない。」

(報告:菱沼)

本人交流会 報告

暑さ寒さも彼岸までと言いますが、この日はまだまだ残暑が厳しく暑い日となりました。

最初は御本人参加1名でのスタート。自己紹介の後、指体操。これが中々難しくちょっとした頭の体操でした。

丁度天気の方も曇り空となり、近くにある戸山公園に出発！Nさんが反対方向へ向かおうとした時「奥様が待ってますよ〜！」と声かけしましたら、納得されて正しい方向に歩き直してくれました。

Hさんはオリンピックの自転車競技に期待されているとのこと、そんな話をしながらのミニハイキング！

山手線内で一番高い「箱根山」に全員で登り大歓声。素晴らしい眺めでした。



一息ついてからは、パネルシアター。

(永見さん、磯部さん)

前は7月だったのでテーマが「海」でしたが、今回は「秋」で、可愛らしいお月見でした。

ほのぼのとした時間となり大変癒されました。伊藤さんのギターとアコーディオンの演奏では、Y子さんが良く声を出されて楽しそうで、その様子を見てご主人も大変嬉しそうでした。

(報告:F)





『笑顔で穏やかに』

K.N

診 断: 2012年11月
病 名: アルツハイマー
退 職: 2016年(59歳)
介護者: 妻

主人が若年性認知症と診断されたのは、2012年11月です。その1年以上前から何か違うと感じていたものの、はっきりさせるのが怖くてそのままにしていました。同じ頃、主人の会社の方も、今までの主人では絶対にしない仕事の失敗が何度もあり、心配して病院を探して一緒に受診して下さったのです。本当に感謝です。

本人の希望により、会社に病名は公表しなかったのですが、それまでの様な仕事が出来ないにもかかわらず、その後3年ほど在籍させて下さり、2016年59才で退職となりました。

このように大事にして頂けたのは、主人の人徳だと会社の方から言っていました。

ここから二人三脚の始まりです。

朝食後、会社に行くと言ったり、夕方になると自宅にいるのに「家に帰らなくちゃ」と言って知人の家に行ったり、という毎日でした。

そして2人で外出した際に、ちょっと目を離したすきにはぐれてしまったのです。次の日警察から

巡回中に保護して下さったと連絡があり、やっと帰宅してくれました。

その時から常に一緒に行動しなければと強く思うようになりました。とはいえ、物心両面で頼りきっていた私にとって主人が病気になったことがあまりにショックで、この先どのように支えていけば良いのか不安でいっぱい、まるで出口が見つからないトンネルの中に閉じ込められた感じで、どんどん笑顔がなくなり暗かったと思います。

介護のたいへんさを痛感した私は、ようやく東京都若年性認知症総合支援センターに相談し、公的支援の手続きの仕方など教えていただきました。

何よりも相談できる人ができて心が楽になりました。

1歩踏み出す勇気を持てたことで彩星の会のことを知り、入会できたのだと思っています。

主人のおかげで、たくさんの方々と出会うことができ、支えて頂いて感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

今は1日でも長く、ひとつでも多く、主人と2人で楽しい事、嬉しい経験を重ねていきたいと思えます。

そのために、旅行に行くことや大好きなアーティストのライブに行くことを目標にしています。

この先も笑顔で穏やかに過ごしたいですネ。

(2019年9月寄稿いただきました)





『私達が元気で居なくては』

N.Y

診 断:平成 13 年頃
病 名:大脳皮質基底核変性症
退 職:平成 15 年
介護者:姉(寄稿者)と兄

弟が大脳皮質基底核変性症と診断されたのは、杏林大学病院で検査入院した平成13年頃だったと思います。川越のマンションで一人暮らしをしていて新宿の都立衛生研究所で衛生検査技士をしていました。

手がしびれたり、もの忘れが目立つようになり職場の上司からすすめられて受けた検査で分かりました。私達は軽い脳梗塞ぐらいに思っていたので、聞いたことも無いような病名にビックルしました。職場の配慮もあって何とか仕事を続けられていましたが、それも段々と難しくなり平成15年に退職しました。まだ定年前の事なので生活は障害者年金を申請するなど彩星の会の先生方に教えていただき本当に助かりました。

頑張っていた一人暮らしでしたが退職と同時に実家に転居、母と兄と一緒に生活するようになりました。その時に弟が「もっと早く母の所へ来れば良かった」とホットした様子で言ったのが忘れられません。一人暮らしがどんなに大変で不安な毎日だったのかと思いました。

通院は兄と私が連れて行っていましたがそれも大変な状態になり、今度は東上線の大山にある東京都老人医療センターの高橋先生にもお世話になりました。彩星の会に出会えて感謝です。

その後弟の症状も進行して今度は実家の近くの杉並にあるブース記念病院に通院するようになり、自宅でも理学療法のリハビリを受けたりして過ごしていました。

デイサービスは一度行ったと思いますが、朝、迎いの車に乗るのを全身で嫌がり結局デイサービスは続けられませんでした。

弟にとっては自分の行く場所では無いと思ったのでしょうか。社交的な人は喜んで楽しみにして出掛けるのに弟のような内向的な性格の人には難しいのか、病状によるものかと色々考えさせられました。

弟は、一人で実家の近くの善福寺川の土手を散歩するのが好きでした。弟にとっては母の居る家が一番安心のできる場所なんだと納得させられました。母親の存在はやっぱりすごいです。

今、弟はブース記念病院に入院しています。平成18年からここにお世話になって13年になりました。

入院まもなくから胃ろうになり、今はもう私達兄姉のことも全く分からないようになっていきます。

病院は実家から歩いて20分位の場所にあり、高齢だった母は毎日シルバーカーを押して弟に会いに行き、手足をさすったり、ヒゲを剃ったりして面倒を見るのが日課でした。

その母も95才で黄泉の国へと旅立ち、先日七回忌を営みました。

今年3月兄から連絡があり、弟の熱が下がらない状態が続いて2,3週間後に右足が赤くなり、偽痛風だと分かり薬で熱が下がったそうです。

それと同じような状態で、今私も右足の親指のつけ根がハして痛く、整形外科で痛風かも知れない、と言われました。

弟の為にも私達が元気で居なくてはと思っています。

(2019年7月寄稿いただきました)



『妻のオムツ交換』



在宅介護にとって“おしもの世話”とりわけ便失禁の処理が大きなハードルとなります。このハードルに直面すると「もう限界」と言って在宅介護を諦めてしまうことがよくあるようです。確かに非常にきつくて辛い作業ですがここが在宅介護の正念場で、このハードルさえ超えてしまえばあとは肉体的にきついことはほとんどなくなると思います。

私は寝たきりになってしまった妻を在宅介護してきて、訪問介護のヘルパーさんがオムツ交換をする際には、妻の体を支えるなどちょっとしたお手伝いをしてきました。当然、訪問介護のタイミングとずれた便失禁もあります。妻が気持ち悪い思いをしているかと思い、見よう見まねで一人でオムツ交換を試みました。はじめは最低限の処置だけで精一杯でしたが、しだいに要領が分かり、しっかりと準備をすればかなりきれいにできるようになりました。

インターネットなどで、動画による作業要領もたくさん紹介されています。是非そちらも見ただけたらと思いますが、介護素人の私一人でもできたオムツ交換を具体的にご紹介することで、少しでも介護生活のお役に立てればと思います。

手順1

まず第一に、本人に声がけして作業を始めることが大切です。

もうコミュニケーションが取り辛くなっていても、「気持ち悪いよね。これからきれいなオムツに交換するからね。」と、理解と協力を求めることです。この声がけをすることで、自分自身の作業に対する覚悟と妻に対する成果を確認することができます。

また、必ずカーテンやドアを閉め本人の尊厳を大切にするとともに、ぬるま湯による体の一部洗浄に適した室温を確保します。

手順2

次に、用意するものです。

- ①古い新聞紙
- ②大型ビニールゴミ袋
- ③陰洗用のタオル
- ④お湯を入れた陰洗用バケツ
- ⑤お湯を入れた穴あきペットボトル
- ⑥泡石鹸
- ⑦替えオムツ
- ⑧替え尿取りパット

- ⑨陰洗時用の大量吸収尿取りパット
- ⑩300×700 程度のフラットシート
- ⑪カットされたトイレトペーパー
- ⑫使い捨てのビニール手袋
- ⑬買い物ビニール袋
- ⑭蓋つきごみ箱
- ⑮トイレに流せるお尻ふき用ウエットティッシュ
- ⑯着替え

⑮⑯は外出時など必要に応じて用意することとなります。

手順3

ベッド上で一人で汚れたオムツを交換するには、片腕で本人の体を支えながらもう片方の手で作業をしなくてはなりません。そのため、用意したものを作業しやすいように事前に配置します。

まず、汚れたオムツなどを置くために①古い新聞紙を広げます。本人の体を支えた状態で汚れたオムツなどを処分するので、ベッドの外に放り投げることになります。私はポータブルトイレをベッドのそばに引き寄せ、その座席に新聞紙を広げることで、ベッドとの高低差を少なくして汚物の飛散防止に努めました。

次に、②大型ビニールゴミ袋を床に敷いた上に、③陰洗用のタオル、④お湯を入れた陰洗用バケツ、⑤お湯を入れた穴あきペットボトル、⑥泡石鹸を用意します。

②大型ビニールゴミ袋は、タオルを濯ぐときに汚水が回りに飛び散っても気軽に捨てることができます。③陰洗用のタオルは、広告名などが入った頂き物の薄手の白いタオルに限定しました。⑤お湯を入れた穴あきペットボトルは、500ml のペットボトルの蓋に千枚通しで小さな穴を数か所空けたものと、ドレッシングなどを入れる少し先の太いノズルが付いたものの二種類を用意しました。汚れ落としの石鹸は泡状の物が使いやすいと思います。



手順4

ベッドで作業をする際の準備です。

⑦替えオムツ、⑧替え尿取りパット、⑨陰洗時用の大量吸収尿取りパット、⑩300×700 程度のフラットシート、⑪カットされたトイレトペーパーを、作業の邪魔にならずに手が届くところに配置します。

⑪カットされたトイレトペーパーは適度な長さにカットしたものを状況に応じて数枚用意します。片手で作業をすることになるのでロールのままですと、片手でカットすることができないだけでなく、作業中にロールがベッドから転がり落ちてしまうことがあります。

次に、⑫使い捨てのビニール手袋を二重に重ねて手にはめます。作業で汚れてしまった時に外側の一枚を外せばすぐにきれいな手袋の状態に戻せる、訪問介護のプロから教わった技です。

手順5

いよいよ作業開始です。

その際、「お待たせしました。これからオムツをきれいにするからね、少し我慢してね。」と、再度声がけします。先ほどの声がけはもう忘れてしまっているので、いきなりズボンを下げられオムツを外されては、人間として当然抵抗します。

オムツを広げ体から少しずつすることで汚物と体を離れた状態にします。⑪カットされたトイレトペーパーを使って、大まかに体についている汚物をふき取り、①古い新聞紙の上に捨てます。

次に汚れたオムツ・パットを抜き取るのですが、声がけしてから片手で臀部を少し持ち上げ、できることであれば汚物とパットを抜き取り、オムツの汚れていない部分を使って、体の汚れをふき取りながら引き抜きます。その状態を維持しながら、引き抜いた汚物パット、汚れたオムツを①古い新聞紙の上に捨て、⑨陰洗時用の大量吸収尿取りパットを臀部の下に敷き込みます。もちろんオムツが汚れていなければオムツを陰洗用にそのまま使います。臀部を⑨陰洗時用の大量吸収尿取りパットの上に戻し、再度⑪カットされたトイレトペーパーを使って、汚物をふき取ったうえで、⑥泡石鹸、⑤お湯を入れた穴あきペットボトルで汚れを良く洗い流し、③陰洗用のタオルで良く拭き取ります。

手順6

体を傾けて臀部の清掃とオムツの着用です。

⑩300×700 程度のフラットシートを体を傾ける方の腰の下に敷き込み、作業中の失禁に備えます。⑧替え尿取りパットを装着した⑦替えオムツを広げて準備します。ベッド側面の落下防止手すりを確認して、声がけしてからその方向に体を 90℃以上傾けます。できれば、本人に手すりを掴んでもらってその姿勢



を維持してもらいます。

臀部の汚れを③陰洗用のタオルで良く拭き取り、⑨陰洗時用の大量吸収尿取りパット、⑫使い捨てのビニール手袋を①古い新聞紙の上に捨て、⑧替え尿取りパットを装着した⑦替えオムツを位置を確認しながらベッドの上に敷きます。声がけして体をもとの状態に戻し、オムツを装着します。

手順7

片付けです。

①古い新聞紙の上には、汚れたオムツ・パット、⑪カットされたトイレトペーパー、⑨陰洗時用の大量吸収尿取りパット、⑫使い捨てのビニール手袋などが集まっていますので、それらを①古い新聞紙でくみ取ります。それを⑬買い物ビニール袋に詰め込んで、バレーボール大の大きさに圧縮してから口を結び、⑭蓋つきごみ箱に捨てます。

以上が私が行ってきたオムツ交換の手順です。

自分自身オムツを着けて便失禁の体験はありませんが、もしそのような状態になった時は一刻も早く不快な状態から助けをもらいたいと思います。また、立位の状態で便失禁をしてしまった時に、オムツ交換の為にベッドに横になることには必死に抵抗すると思います。

豊かな在宅介護を送るうえで、本人に寄り添ったオムツ交換の準備と工夫はとても大きな要素だと思います。

(2019年7月に会員の方から寄せられました)



若年性認知症支援団体 紹介コーナー【6】



ライゼの会 【若年性認知症ライゼの会】

ライゼとはドイツ語で旅という意味で、人生の旅を考え名付けました

ライゼの会はひとりの若年性認知症の方との出会いから始まります。2018年6月9日、朝霞市の地域福祉を考える市民の会の講演会講師を引き受けていただいた方との出会いからです。

その方とは、川口市に在住の佐藤雅彦さんです。佐藤雅彦さんを訪問して打ち合わせを重ねる度、若年性認知症と診断された方の現在の状況を知ることになります。

この出会いで、若年性認知症と診断された方やご家族の、大きな悩みと葛藤を少しでも和らげることができないだろうかと思うようになったのです。

埼玉県南部に位置する朝霞市や隣接する市においては、高齢者の認知症施策はそれなりに進んでいるのですが、若年性認知症についてはまだまだ理解と認識が不足しています。そこで、私たちは有志を募り、若年性認知症の方が交流でき、相談や情報を共有できる場所を地域に作りたいと考え、県や市の担当者、地元の地域包括支援センターに相談し、私たちの取り組みを応援していただきました。昨年夏から発足するまで10カ月余り、都内の支援する団体や事業所、県内の団体にも足を運び、研修や勉強会にも参加し、多くの方の助言を頂き2019年4月から活動を始めることができたのです。

しかし、交流会を始めても、本人やご家族が来てくれるだろうかという不安もありました。そんな中、他の支援団体のお声がけもあり、4名の本人ご家族との出会いがあり、試行錯誤のなかでしたが、第1回交流会は無事開催でき、佐藤雅彦さんも駆けつけてくれました。初めてお会いする方ばかりでしたが、和気あいあいと歓談でき、メンバーも安堵しました。→

ライゼの会 本人ご家族交流会

認知症（若年性認知症）と診断されて、この先の大きな不安を抱えている本人や、ご家族の皆さんが集まり、本音で語りあえる場所です。

ここでは、同じ不安を抱えた本人やご家族、話せばわかってくれる仲間やパートナーがいます。

本人やご家族、仲間やパートナーは本音で語り合い、そこから生まれる知恵でこれからの人生をよりよく過ごし、地域社会で自分らしい生き方が出来るようになります。

活動日 第4日曜日
午後1時30分から3時30分迄

会場 下記会場にて毎月交互に行います
変更がある場合はご連絡致します

★各回会費はひとり100円です
(会費は飲み物と保険代に充てます)

★行事開催時の飲食、交通費は実費です

★個人情報はこの会以外では使用しません

4月・6月・8月・10月・12月・2月
(株)ランダルコーポレーション
2階研修室
埼玉県朝霞市西原1-7-1
お車でご来場の際は近くの有料駐車場をご利用下さい

5月・7月・9月・11月・1月・3月
朝霞市中央公民館
埼玉県朝霞市青葉台1-7-1
駐車場は限りがあるので公共交通機関をご利用下さい

Deme cafe・ライゼの会参加お問い合わせ

ライゼの会【若年性認知症ライゼの会】
埼玉県朝霞市本町3-7-83-7
☎080-6636-8886(佐々木 遼)
✉dolphinspapa@jcom.zaq.ne.jp
<https://jyakunen-reise.jimdofree.com/>

このチラシは一般社団法人日本認知症ケア学会
地域ケア支援事業の支援により作成しました

ライゼ (Hoiso) とはドイツ語で旅という意味です。
いかなる状況におかれても人生の旅は続き、旅の途中では多くの人達との新たな出会いがあります。

→その後も佐藤雅彦さんには時々来ていただいております。

そして6月から、左の案内のようにスターバックスコヒー朝霞駅前店の協力で認知症カフェ「Deme cafe」も始めました。Deme cafeには、本人ご家族を始め、認知症じゃないかと不安な方や、地域の方、福祉医療関係、行政の方など様々な分野の方が来てくれます。駅前、スタバ、出入り自由のゆるいあつまりを基本としているので、気兼ねなく参加できるようです。ある講演会に参加しお近づきになれた、彩星の会の森義弘様も毎回参加していただいております。その都度ご助言や、相談にお答えいただき感謝しております。

これからも、本人ご家族の良きパートナーとなり、この地域で継続して活動をしていきます。認知症の方の意思が尊重され、住みなれた地域で暮らし続ける事ができる社会を共に作り、そして、それが大きな繋がりになればよいと考えています。継続と繋がりがライゼの会の源です。

Deme cafeとは……Dementia[認知症]cafeの略称で読み方はデメカフェ。スターバックスコヒー朝霞駅前店のご協力で開催します。予約は不要です。直接スターバックスコヒー朝霞駅前店にご来店。飲み物は各自でご購入下さい。

認知症の方や家族、支援者、地域住民などが気軽に集まって、交流や情報交換をする場です。認知症の方の意思が尊重され、住みなれた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指しています。

午前10:00
～12:00

毎月第一木曜日に開催。変更になる場合もあります。

開催日はQRコードでライゼの会ホームページ Deme cafe案内

問合せはライゼの会までお願いします



問合せはライゼの会ホームページ、メール、電話でお願いします。
☎080-6636-8886 ☉dolphinspapa@jcom.zaq.ne.jp
<https://jyakunen-reise.jimdofree.com/>

♡ 加藤弥生さん退任にあたって ♡

長年にわたり
サポーターとして
ご協力をいただき
ありがとうございました！



加藤弥生様には、彩星の会のサポーターとして多年にわたってご協力をいただき誠にありがとうございました。また賛

助会員としてもご支援をいただき重ねてお礼申し上げます。

以前に会合の席でお聞きしたのは「わたしは『傾聴ボランティア』を長い間やっておりました。そのあとに、縁があって彩星の会のサポーターとして13年ほどになります。当時は若年性認知症という言葉はありませんでしたよ」と話されました。

このことから、加藤様は四半世紀を『ボランティア』として活動されていたことになります。彩星の会で一緒に活動ができたことにうれしく思っております。

上智大学、首都大学荒川キャンパス、昭和女子大学、新宿区障害者福祉センターなど、いつもこの定例会場でも、加藤様の『寄り添う』というスタイルは崩れることなく、ご本人を見守っていただいたことにより、彩星の会が主とする定例会を無事に遂行できたのであります。

ご本人家族会での思い出はたくさんありますが、その中でも、浜松町で開催しました定例会では、加藤様とお仲間の一同のハンドベル演奏を披露していた

いただきました。演奏前のザワザワした話し声がハンドベルの一音と同時に会場が水を打ったような静けさとなったことに驚いたものです。

新宿御苑散策ではご本人への目配り、気配りなど、加藤様でなければという場面を何度も拝見しました。

また、定例会会場案内のために暑い日も寒い日も『彩星の会』の案内板を持って道に立っていただき、参加者は安心して会場まで行くことができました。

しかしながら、このたび加藤様より「体力的に限界を感じることもあり、サポーターを辞退したい」とのお申し出をいただきました。とても残念なことであると思っております。

加藤様の体調やお時間がよろしいときには、ぜひ定例会にお越しいただけることを世話人一同楽しみにしております。

彩星の会を代表しましてお礼申し上げます。
ありがとうございました。



(2019年10月24日 彩星の会代表 森義弘)

介護体験談 No.15

Q: 入院中、「なんでここにいなければならないんだ」「帰る」

A: ベッドサイドに、「歩かない」「車椅子にのる」「けがで入院している」と張り紙をだす。

介護体験談 No.16

Q: 入院中、夜中に自室から出て廊下をうろうろする。

A: トイレに誘導したあとに、入床を促したところうまくいった



お知らせ



■ 11月定例会

日時：11月24日(日) 13:00～ (12:30受付開始)

会場：「新宿区立障害者福祉センター」

新宿区戸山1-22-2

◆家族交流会：講演「がんばらない介護」

講師 古川真紀子氏

司会 森 義弘

◆本人交流会：アコーディオンに合わせ「少し早めのクリスマス」を唄おう！

(そのあとパネルシアターをご家族と同じ部屋で鑑賞します。)

*ご本人がご出席の場合は事前にご連絡ください。電話 03-5919-4185 [メール hoshinokai@beach.ocn.ne.jp](mailto:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp)

■相談コーナー開設のお知らせ

彩星の会定例会会場で、相談コーナーを開設します。会員だけでなく、会員以外の方からの相談もお受けします。

場所：定例会会場（新宿区立障害者センター）1階

時間：13:30～15:00 *事前に彩星の会までご連絡ください。



■10月27日バザー報告：売上げ金は44,996円でした。ご協力ありがとうございました！

■「彩星だより」の受け取りを郵送からメールでの受取りに変更しませんか？全面カラー版で、しかも数日早く見られます。お申込み方法：彩星の会メールアドレス hoshinokai@beach.ocn.ne.jp に「彩星だよりメール受信希望」とお書きの上お名前も忘れずに送信してください。

■ご報告 下記の方々からご寄付をいただきました。(8月～10月)

佐藤善雄様、立木桂子様、千葉京子様、遠藤忠雄様、望月和也様、小出美智様、牛塚康子様、岡田一美様、前田美樹様、山花 洋様、渡辺正剛様、森 義弘様、合同会社アトナイン代表石井陽之様、石藤正子様、萬谷耕造様、坂上和子様、斉藤幸子様、米村浩明様 (順不同)

●寄付合計額(1月～9月) ☆一般寄付 386,967円 ★20周年プロジェクト寄付 810,000円

厚く御礼申し上げます！◆彩星の会事務局◆

■ご相談・ご入会は彩星の会事務局までご連絡ください

【相談日】月、水、金 10時30分～16時

電話：03-5919-4185 FAX：03-6380-5100

e-mail：hoshinokai@beach.ocn.ne.jp HP：http://www.hoshinokai.org

■年会費家族会員 5,000円 賛助会員 A5,000円/B3,000円/C10,000円

■お申込み(ご入金)は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。

郵便振替口座番号：00170-7-463332 加入者名：若年性認知症家族会・彩星の会



編集後記 今年はずいぶん激しい台風が重なり甚大な被害が出た。被災した方々にお見舞い申し上げるとともに気候が世界的に変わったと思われた。犬を飼っているが犬の欲望は食べて散歩(つまり排泄)して飼い主の傍に居ることの三つしかないと感じている。パベルの塔ではないが人間の欲望があまりにも大きくなりすぎたのではと思う昨今である。(ひろ)